



ご挨拶

小見山 道

日本顎口腔機能学会 会長

(日本大学松戸歯学部顎口腔機能補綴学講座 教授)

(本文)

このたび、服部 佳功前会長の後任として、会長を務めさせていただくこととなりました。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

日本顎口腔機能学会は、「本会は顎口腔系の諸機能に関する基礎ならびに臨床の真理探究し、その進歩発展を図ることを目的とする」と会則に謳い、40年を超えて学術研究を続けてきました。以前、皆木先生が会長の時、学術大会の発表方法に関する現在の15分発表15分質疑の在り方について理事会にて議論となった際に、誰も迷うことなく現在の発表方法を継続することを決めた時に、この学会の本気度が垣間見えました。

本学会は、顎口腔機能研究に関する自由闊達な意見交換を尊重し、学会を会員間の研究コミュニティ形成や次世代研究者育成の場として発展しています。学術大会における各口演演題の疑問を語りつくすための発表と質疑の時間、顎口腔機能セミナーでの講師と参加者が同じ目標に汗を流す姿、学会賞・奨励賞の選考基準などは、まさに本学会の真骨頂とも言うべきであり、学術活動の王道を進んでいると自負して良いでしょう。

歯科医療において、平成28年度の診療報酬改定で「有床義歯咀嚼機能検査」や「舌圧検査」が保険収載されましたが、その根拠として本学会などから発表された顎口腔機能に関する研究結果が貴重なエビデンスとなったことは、皆さんご存じの通りです。本学会には基礎と臨床の広範な領域にまたがる歯学研究者に加えて、工学者をはじめとする多様な学問領域の研究者が参画していただいています。学際的環境で行われる貴重な意見交換がこの領域の研究に情熱を注ぐ若手会員への素晴らしい刺激となり、社会実装を目指した顎口腔機能研究が数多く生み出されています。本会の伝統がこれからも永く受け継がれ、研究成果がより多く社会実装されることで、顎口腔機能研究の拠点として一層発展することを目指していきたいと思います。

歴代会長はじめ諸先輩の努力と業績に敬意を払いつつ2年間の会長任期の間、本学会の発展にわずかでも寄与できますよう努める所存です。本学会会員ならびにご関係の皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。